

背景・目的

つくばスーパーサイエンスシティ構想 先端的医療介護サービス『生活・医療の情報をもとに健康な生活を』

つくば市が抱える問題

- ・高齢者の病気療養や要介護の期間が長期化（平均寿命と健康寿命とのかい離）
- ・標準化医療費全体に占める生活習慣病は約5割であり、茨城県の標準化医療費よりも高額
- ・特定健診の低受診率
- ・高齢者の外出の機会や意欲が低下。他方、感染症の流行下では、外出を自粛するなどの活動縮小が必要

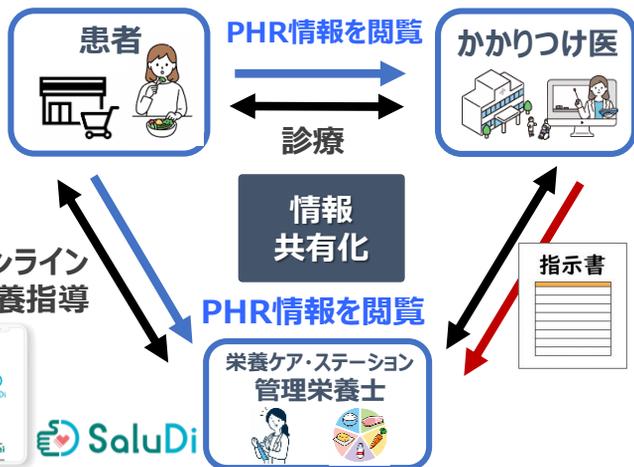
目指す未来と取組内容

- ・生活情報と医療情報に基づいた食のレコメンドを実施し、糖尿病等の生活習慣病を予防・進行抑止
- ・コミュニティの形成支援と運動の習慣化により、外出意欲を創出、運動習慣の定着とフレイル予防を実現
- ・行動タイプ別の勧奨通知を行い、病の早期発見と治療を実現
- ・体温管理等による健康予報により、効果的な感染拡大予防

つくば市では「つくばスーパーサイエンスシティ構想」の中で、「生活・医療の情報をもとに健康な生活を」というテーマが掲げられており、生活習慣病の予防や罹患者の二次予防は喫緊の課題である。その対策として、かかりつけ医と栄養ケア・ステーションの管理栄養士による、PHRを活用した「オンライン栄養指導」の実証事業を実施する。

実験内容

■ PHRを活用したオンライン栄養指導



■ 実証事業（栄養指導）の流れ

医師診察

茨城県栄養士会
栄養ケア・ステーション
日程調整管理栄養士
オンライン栄養指導

実験（検証）結果

■ トライアルでの主な効果

患者

日常生活改善機会

医療機関・医師

栄養指導手段獲得

管理栄養士

指導関与拡大

■ トライアルでの主な課題

PHRダウンロード・入力作業の障壁

栄養指導デジタル化の障壁

栄養指導時間確保（休日、時間外実施）

今後の展望

スーパーシティでの実現可能性 データ連携基盤を活用した「パーソナルフードサービス」へ

2025年度
オンライン栄養指導
課題解決モデルの実施2026年度
データ連携基盤活用による
サービス提供2027年度
複数サービス連携、横展開